

平成 27 年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園

A : よく出来ている、 B : まあまあ出来ている、 C : あまり出来ていない、 D : 出来ていない

I 保育の計画性

		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	10%	80%	10%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	6%	72%	16%	6%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	6%	72%	16%	6%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	0%	79%	21%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	0%	68%	32%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	5%	81%	14%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	0%	81%	14%	5%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	11%	68%	16%	5%

「園の教育方針等の理解」の項目では、「よく出来ている」（以下、「A 評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B 評価」という。）を合わせて 90% となっている。「教育課程の編成」及び「指導計画の作成」の項目では、「A 評価」と「B 評価」を合わせて 78% であるが、一方で「C 評価」と「D 評価」と答えているものが合わせて 22% いることから、こうした職員への指導・支援体制をしっかりと行っていく必要がある。

また、「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は「B 評価」が多く、その平均は約 77% であった。ただ、「あまり出来ていない」（以下、「C 評価」という。）と自己評価した者も平均 20% 程おり、今後は「A 評価」を目指して努力をしていく必要がある。

「評価・反省」の項目では、「A 評価」「B 評価」を合わせて 79% であり、「環境の構成」の項目同様、今後は「A 評価」を目指して努力を重ねていく必要がある。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
健康と安全への配慮	園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	14%	81%	5%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	26%	63%	11%	0%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	5%	81%	9%	5%

	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	0%	85%	15%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	5%	79%	11%	5%
指導との関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	5%	95%	0%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	30%	70%	0%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	5%	85%	10%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	5%	80%	15%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	15%	80%	5%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	25%	65%	5%	5%

「健康と安全への配慮」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均92%であり、「健康と安全への取組」が教職員の意識にもかなり浸透していることが窺える。また、園内の清掃や整理整頓は今後も徹底していきたい。

また、「幼児理解」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均85%であり、教職員は幼児理解の重要性を感じて努力しているものと思われる。一方で、「C評価」「D評価」と自己評価した者が平均で15%いることについては、改善していかなければならない。

また、「指導との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均95%であり、幼児への関わりを重視しながら保育に当たっていることが窺える。一方で、幼児への適切な援助では10%、適切な対応では15%が「C評価」としており、今後、改善していかなければならない。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、「クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がけているか」の問いには「A評価」と「B評価」を合わせて95%であり、全園児を大切にしながら保育に当たっていることが窺える。また、「幼児について保育者同士で話し合い、共通理解を図っているか」の問いでは「A評価」と「B評価」を合わせて90%あるものの、教職員全員が協力・連携体制を取れるよう話し合っていく必要がある。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	15%	80%	5%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	20%	70%	5%	5%
要望等への処理の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	5%	85%	5%	5%

「情報の発信と受信」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて95%であり、保護者からの相談や要望には心を開いてよく話を聞くよう心がけていると思われる。また、「対応上の心がまえ」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせて90%であり、保護者からの依頼や伝言にはきちんと対応するように心がけていることが窺える。

さらに「**要望等への処理の仕方**」の項目では、「A評価」が5%、「B評価」が85%であり、要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解した上で対処していることが窺える。一方で、「C評価」「D評価」と自己評価した者がそれぞれ5%いることについては、改善していかなければならない。

IV 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	0%	53%	42%	5%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	0%	7%	33%	60%
子育て支援と地域への開放	子育ての支援や地域への開放に努めている	0%	30%	40%	30%

「**地域・自然・人々との関わり**」の項目では、「B評価」が53%であり、「C評価」と「D評価」と答えた者は合わせて47%であり、地域等の関わりに課題を感じている教職員が多いことが窺える。

また、「**小学校との連携**」の項目でも、「B評価」とした者は7%と低く、逆に「C評価」、「D評価」と答えた者は合わせて93%と高くなっているが、小学校との連携は担当学年によって左右されることが窺える。さらに、「**子育て支援と地域への開放**」の項目では、「B評価」とした者が30%、一方で、「C評価」、「D評価」と答えた者は合わせて70%であり、子育て支援や地域への園開放に携わっている教職員は特定のものに限られており、評価の捉え方に差があるためと思われる。

認定こども園となったことで、子育て支援の充実と地域との連携をより図るため、地域や自然や社会との関わりを教職員全体で考えていく必要がある。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	10%	40%	40%	10%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	20%	65%	10%	5%

「**研修・研究への意欲・態度**」の項目では、「研修会や研究会には自己の課題をもって参加しているか」の問いに「A評価」と「B評価」と答えた者は合わせて50%であった。一方で、「C評価」と「D評価」と答えた者も合わせて50%おり、研修会・研究会に参加する機会の確保またその体制作りに努めていく必要がある。

また、「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには「A評価」と「B評価」と答えた者は合わせて85%である。ただ、「C評価」「D評価」の者が15%いることを考えると、教職員間の相談体制の充実に更に努めていく必要がある。